

1 情勢報告

『芳生野営農生産組合』の2年目の米ナス栽培始まる



平成21年にこうち型集落営農組織として設立された『芳生野営農生産組合』で、2年目となる米ナス栽培が始まりました。4月9日には15人の組合員がJA津野山指導員による定植方法の説明を受けた後、11aハウスに‘なつのすけ’と、今年新たに規模拡大した17aハウスに‘くろわし’を定植しました。米ナス隊長を中心に植え穴あけ係、定植係、灌水係など分担して、効率的に作業が進み、予定の時間よりも早く、半日で終わりました。組合では、ショウガの植え付けや、水稲作業に順次取りかかっています。今後も振興センターでは、技術指導など活動支援をしていきます。

『大野見産米エコ研究会』総会が開催



4月19日に中土佐町大野見で『大野見産米エコ研究会』の平成23年度総会が行われました。総会では担い手の育成、所得向上を重点目標に、大野見米のブランド化を図るための品質向上、販路拡充に取り組むことが合意されました。

振興センターからは良い稲をつくるためのガスを発生させない方法や、特別栽培米基準の農薬使用例を説明し、またJA四万十からは高温登熟性に優れる「にこまる」の紹介がされました。23年度は特別栽培米に9名が取り組む予定です。

振興センターでは、実証ほを設置して生育や品質を確認し、品質向上の技術支援等をしていきます。

『JA津野山園芸部ユズ部会』総会が開催



平成23年4月8日に『JA津野山園芸部ユズ部会』総会が開催されました。

JA津野山は3年前にJA馬路村と協定を結び、JA馬路村のユズ加工商品の原材料供給産地づくりに取り組んでいます。新植されたユズの面積は平成22年度には17haとなり、一部は今年から収穫が始まりそうです。また昨年末は地域内の既存のユズ園からも18.8tが出荷されました。

総会には部会員30名が出席し、パートナーであるJA馬路村からも来賓を迎え、中山間地域での農協間連携によるユズの産地づくりに向けて、供給産地として必要な栽培技術の向上、安定出荷へ取り組んでいくことが決定されました。

振興センターでは今後も技術指導や部会活動への助言等によりJA津野山のユズの産地化を推進していきます。

1 情勢報告

平成 23 年度第一回津野町直販所連絡会が開催



平成 23 年 4 月 13 日に平成 23 年度第一回目の津野町直販所連絡会が開催されました。

津野町では、直販所を農家の所得確保の重要なシステムと位置づけ、平成 19 年度から町内の 3 つの直販所（風車の駅、道の駅、山の駅）の物流、販売、情報のネットワークの構築に着手し、さらに平成 22 年度からは「県産業振興計画地域アクションプラン」の「拠点ビジネスの整備」として産業振興推進総合支援事業の採択を受け、生産基盤や流通網の整備に加えて、平成 23 年度中には地域農産物加工所や新アンテナショップを新設する計画です。

連絡会では販売力向上のための出荷量の確保や新しい需要への供給体制づくりにむけて年間計画について協議しました。

振興センターは、これまでも出荷物の生産拡大や端境期対策等栽培技術面の指導を行ってきましたが、平成 22 年度からは連絡会の若手スタッフの『農業創造セミナー』受講を手始めに、直販所を担う人材育成も推進しています。

J A 土佐くろしおミョウガ部会が「出荷目慣らし会」を開催



ミョウガの出荷が本格的に始まるのにあわせて 4 月 12～15 日と 19～22 日にかけて、J A 土佐くろしおの大間・浦ノ内・上ノ加江の各集出荷場においてミョウガ部会の「出荷目慣らし会」が開催されました。

会では、J A 販売課が販売報告と出荷調整の注意点を説明したあと、出荷規格に沿って色合いを中心にミョウガの等階級を生産者で目合わせしました。

振興センターからは夏場に問題となっているミョウガの腐敗対策を説明し、市場事故を起こさないための各自の取り組みを考えてもらいました。7 月には再度、ミョウガの腐敗防止対策の指導を J A と行います。